

ワクチンの同時接種について（厚労省Q&A 問5・6から引用）

小児用肺炎球菌ワクチンとヒブワクチンとの同時接種やこれらのワクチンとDPT（3種混合ワクチン）など、他のワクチン（B型肝炎ワクチン、MR（麻疹・風疹混合）ワクチン、おたふくワクチン、水痘ワクチン、日本脳炎ワクチンなど）との同時接種について

【解説】

国内外の調査研究によれば、小児用肺炎球菌ワクチンやヒブワクチンを含む複数のワクチンを同時に接種した場合、発熱や注射した部位の腫れなどの軽い副反応が増加するという報告もみられますが、差がないとする報告も見られます。同時接種による重篤な副反応の増加は報告されていません。欧米においても同時接種の安全性については問題ないとされ、同時接種は通常の方法として広く行われています。

このため、同時接種について、現在の知見からは安全性についての問題はないと考えられます。ワクチンの同時接種は、早く免疫をつけたり、接種を受けるための受診回数を少なくするために行われ、医師の判断と保護者の方の同意によって行うことができます。

なお、それぞれのワクチンを一つずつ単独で接種することもできます。別の日に接種するには、原則として、B型肝炎・小児用肺炎球菌・ヒブ・DPT（3種混合）・日本脳炎などの不活化ワクチンの接種後は6日以上、BCG・ポリオ・MR・おたふく・水痘などの生ワクチン接種後は27日以上の間隔をおく必要があります。

基礎疾患を持っているお子さんは、一般に、健康な乳幼児よりも感染症にかかると重症化するリスクが高く、髄膜炎や敗血症などの重い感染症を早期に防ぐことが重要である一方、ワクチンによる副反応については、より注意が必要です。例えば重い心疾患など、重い基礎疾患のある子どもへの予防接種は、日頃から基礎疾患の状態についてよく知っている主治医や、主治医と連携し予防接種の経験のある医師などが、子どもの体調をよく確認して、接種を受けるのに適した時期を判断し、慎重に接種を行います。

複数ワクチンの同時接種は、早く免疫をつけたり、受診回数を少なくする等を考慮して行われるもので、同時接種で重篤な副反応が増えるわけではありません。しかし、慎重に接種をしたいと希望される方には、個別に接種も致します。

=====切り取り=====

ワクチンの同時接種についての同意書

私は、ワクチンの同時接種に関する説明を受けました。
私は、予防接種については、以下の様に希望します。

- 予防接種は
- 1 単独接種を希望

2 本日は迷っているので単独接種のみ

3 複数の同時接種を希望

診察券番号 _____ 患者氏名 _____

保護者氏名 _____ 印・サイン